第３学年　球技「ハンドボール」　指導と評価の計画

【単元目標】

知識及び技能	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，球技の名称や行い方，体力の高め方，運動観察の方法などを理解するとともに，作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ゴール型では，安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。
思考力，判断力，表現力等	攻防などの自己やチームの課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力，人間性等	球技に自主的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，作戦などについての話合いに貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い教え合おうとすることなどや，健康・安全を確保することができるようにする。

【単元指導計画及び評価計画】

時	学習内容	学習活動	評価機会
1	ハンドボールの特徴を知り，学習の見通しをもつ。	・目指す姿を示し，見通しをもつ。 （パスを繋いでシュートをしたり，仲間と連携して空間に走り込んだり，空間を作りだしたりするゲームができる） ・種目の特性やルールを知る。 ・授業の準備や流れ，ドリル運動の仕方を理解する。	態①
2	基本的なボール操作の仕方を理解し，試合の流れをつかむ。	・パスやキャッチの基本的な行い方とポイントを知る。 ・基本シュート(ステップシュート，ジャンプシュート)の練習を通して，シュートを決める楽しさを味わう。 ・試しのゲームを行いながら，基本のルールを確認する。	知①
3	動きの中でパスを繋いだり，シュートをしたりする。	・止まった動きではなく動きながらパスやシュートをする。 ・動きながらプレイし，早い展開の試合を行う。	技①
4	ポジションを位置付けて役割を明確にし，空いたスペースを活用する。	・ポジションごとに役割をもち，縦や横のスペースを使ってシュートを狙う。 ・試合の動画をもとに，スペースがどこにできやすいか確認する。	思③ 態②
5	空いたスペースを使って攻める。（ゴール前，サイド）	・早くパスを繋いで，ゴール前のスペースを使ってシュートする。 ・縦にパスを繋いで，ゴールに近い位置でシュートを狙える試合をする。	技③
6		・サイドのポジションを位置付け，守備者の少ない横のスペースを使ってシュートする。 ・横に広がってコートを広く使い，守備が少ないサイドからシュートを狙う試合をする。	思②
7	スペースを作りだすために，チームで課題を設定し，解決に向け練習方法や場を選択して取り組む。	・チームの実態をもとに，スペースを作りだすために有効な動きを試行錯誤する。 ・チーム課題に応じた練習方法を選択して活動する。 ・ミニゲームの中で，スペースを作りだすための意図的な動きを使って攻める。	技②
⑧			思①
9	これまで練習してきたことを活用して，まとめのゲームを行う。	・相手の状況に応じて，空いたスペースに走り込んだり，意図的に動いてスペースを作りだしたりして攻める。 ・課題に向かって取り組んできたことを活かせたか，振り返りのなかで成果や課題を仲間と伝え合う。	総括的な評価
10			

【評価規準と評価方法】
Ｅ球技〔第３学年〕

評価規準と評価方法	
知	①ハンドボール（ゴール型）において用いられる技術や戦術，作戦には名称があり，それらを身に付けるためのポイントがあることについて，言ったり書き出したりしている。【記述】
技	①ゴールの枠内にコントロールしてシュートしたり，味方が操作しやすいパスを送ったりすることができる。【観察】 ②ゴール前に広い空間を作りだすために,守備者を引き付けてゴールから離れることができる。【観察】 ③パスを出した後に次のパスを受ける動きをすることができる。【観察】
思	①自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題について,自己の考えを伝えようとしている。【観察，記述】 ②課題解決に有効な練習方法の選択について,自己の考えを伝えようとしている。【観察，記述】 ③チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて,自己の活動を振り返ろうとしている。【観察，記述】
態	①球技の学習に自主的に取り組もうとしている。【観察，記述】 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。【観察，記述】